

令和 6 年度  
東京都ソフトボール協会  
記録員伝達研修会

令和 7 年 3 月 2 日(日)  
東京女子体育大学



# 2025 オフィシャル ソフトボール ルール 改正点

## P17 ルール 1 用語の定義

### 1-33項

イリーガル サブスティテュート

ILLEGAL SUBSTITUTE

(不正交代)

#### ※改正理由(修正理由)

タイブレーク走者の違反が不正交代となったため、6.を新設。

また、この改正に伴い、P12 1-2項 アピールプレイの(9)も「タイブレーク走者違反があったとき」と文章表現を統一。

1-33項 イリーガル サブスティテュート ILLEGAL SUBSTITUTE (不正交代)とは、次のような場合をいう。

1. 無通告交代。
2. 再出場違反。
3. DP違反。
4. 失格選手の出場。
5. 代替プレイヤー違反。
6. タイブレーク走者違反。

P12 1-2項 アピールプレイ (9)を上記に合わせ、文章表現統一

- (6) 代替プレイヤー違反があったとき。
- (7) 再出場違反があったとき。
- (8) DP違反があったとき。
- (9) タイブレーク走者違反があったとき。

## P19 ルール 1 用語の定義

### 1-43項

リーガル タッチ

LEGAL TOUCH

(正しい触球)

#### ※改正理由(修正理由)

現行の条文では、片方の手で球を確捕していれば、球を確捕していない側のグラブで走者に触れても正しい触球と解釈される恐れがあるため。

1-43項 リーガル タッチ LEGAL TOUCH (正しい触球)とは、走者・打者走者が塁に触れていないとき、または占有権のない塁に触れているとき、野手によって触球されることをいう。

1. ベースタッチは、野手が手かグラブ・ミットで球を確捕し、球またはグラブ・ミットを塁(ベース)にタッチするか、身体の一部が塁(ベース)に触ればよい。
2. 打者走者および走者へのタッチは、野手が**確捕した球、または球を確捕したグラブ・ミット**で走者に触ればよい。

(注) 野手が触球したとき、球をジャググルしたり、落としたときは、球を確捕しているとはみなさない。

## P22 ルール1 用語の定義

### 1-62項

リプレースメントプレイヤー

REPLACEMENT PLAYER

(代替プレイヤー)

#### ※改正理由(修正理由)

2024年シーズン中の緊急事案としてリプレースメントプレイヤー(代替プレイヤー)の対象に、出血だけでなく、「頭部外傷」を含めたため、その内容を本年度のルール改正に反映させた。

1-62項 リプレースメント プレイヤー REPLACEMENT PLAYER (代替プレイヤー)とは、出血や頭部外傷で一時的にその試合を離れるプレイヤーに代わって、治療・止血措置などの間、臨時に出場することが認められたプレイヤーをいう。

(注) 代替プレイヤーは、負傷が発生した時点でラインアップに入っているプレイヤー以外で、その試合にすでに出場していても(正しい交代者の資格がなくても)、ルール違反で退場または除外されたプレイヤーでなければよい。通常のプレイヤーの交代ルールには抵触しない。

## P27 ルール2 競技場

### 2-3項

#### ダイヤモンド(内野)の諸線

##### ※改正理由(修正理由)

P28の2-3項2(注3)ですすでに予告済みであった小学生の投球距離(投手板から本塁までの距離)を10.67m→12.19mに延伸する。

※P30の「内野諸線図」も同様に修正。

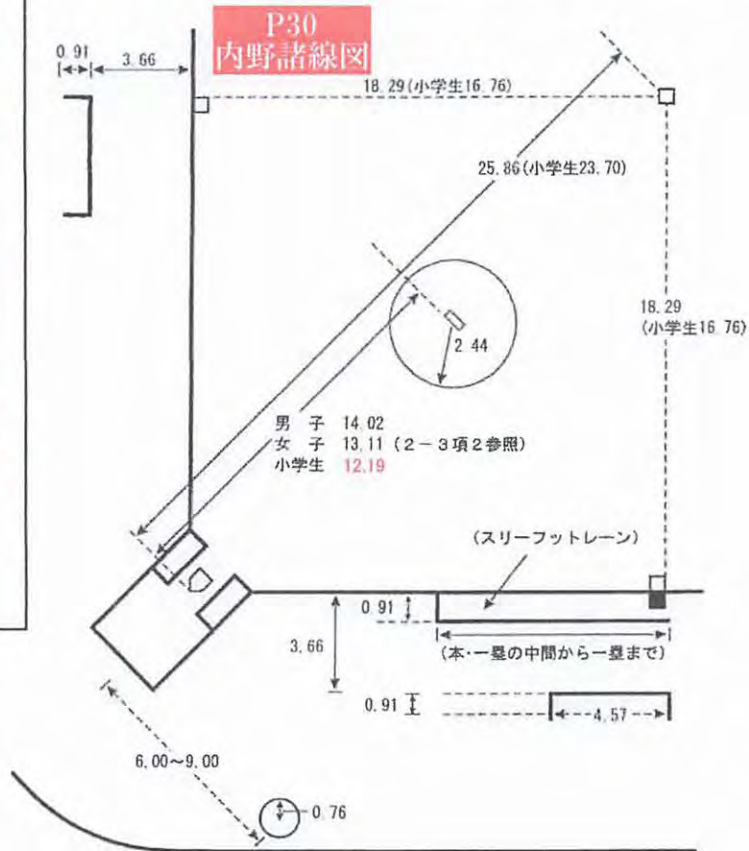
また、これに伴って2-3項2(注1)行頭に「小学生」を追加。また、本年度の改正を予告していた2-3項2(注3)を削除した。

## 2-3項 ダイヤモンド(内野)の諸線

1. 塁間距離 男子:18.29m 女子:18.29m 小学生:16.76m

2. 投球距離 男子:14.02m 女子:13.11m 小学生:12.19m

(注1) 小学生、中学生女子、およびレディース、エルダー、エルDEST、ハイシニアは12.19mとし、シニアは13.11mとする。



## P35 ルール3 用具

### 3-1項 バット

##### ※改正理由

バットのイラストに図示された安全グリップの長さの表示が3号バットのものであり、2号バット、1号バットでは異なるので、長さは表示せず、「安全グリップ」とのみ表記するよう修正した。

## 3-1項 バット

1. バットは、木材・金属・プラスチック・グラファイト・カーボン・ガラス繊維・セラミックス・チタン合金あるいは複合材料で作られたものである。

2. バットは丸い棒状であって、表面は滑らかで凹凸があってはならない。

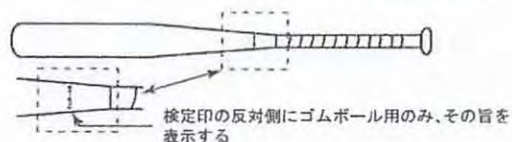
3. バットには、コルク、テープ(滑らかなプラスチックテープでないもの)、または合成物質からなる安全グリップをつけなければならない。

(注1) グリップ性を高めるために、安全と認められた樹脂・ロジン・スプレーなどを、グリップ部分にのみ使用することができる。

(注2) グリップにテープを使用する場合は、らせん状に連続して巻かなければならない。テープは二重に巻いてはならない。

4. 金属バットは、両端部分が密閉された一体構造でなければならない。

5. 握りの部分には安全ノブをつけなければならない。



P47 ルール4 プレイヤーと交代  
4-4項

スターティングプレイヤー

※改正理由(修正理由)

4-4項(注)の文末に「ただし、頭部外傷の場合は除く」の一文を追記。

4-10項10の「頭部外傷(死球時、送球時、守備時、いかなる場合であっても)が発生した場合、代替プレイヤーを使用することができる」との整合性を持たせるため。

P51 ルール4 プレイヤーと交代  
4-7項 プレイヤーの交代

※改正理由(修正理由)

タイブレーク走者の違反が「不正交代」となったため、4-7項<効果>7項(注)に⑥を新設。

P57 ルール5 試合と打ち合わせ  
5-6項 タイブレーク

※改正理由(修正理由)

国際ルール(WBSC/世界野球ソフトボール連盟)の文章表現に合わせた。※内容的な変更はない。

P63 ルール6 投球

6-4項 守備位置

※改正理由(修正理由)

6-4項1(注)として記載されていた内容を<効果>としてまとめなおし、わかりやすくした。

4-4項 スターティングプレイヤー

1. スターティングプレイヤーは、試合開始30分前に、チームから打順表が提出され、審判員・公式記録員によって確認されたとき、公式のものになる。
2. 提出されたのち、突発的なケガや急病の場合は、試合開始前の審判員と監督の打ち合わせで、そのプレイヤーを他のプレイヤーと交代することができ、交代したプレイヤーがスターティングプレイヤーになる。
3. 上記2で交代して退いたプレイヤーは、試合中いつでも交代者として出場できる。

(注) 打者走者または走者が、死球などの突発的なケガで与えられた塁までの走塁が不可能になったときは、代走者と交代し、進塁することができる。(この交代は通常の交代であり、代替プレイヤーを使用することはできない。ただし、頭部外傷の場合を除く)

- (3) 違反者(失格選手)が、さらに出場した場合は、没収試合になる。

(注) 不正交代とは次のような場合をいう。

- ① 無通告交代。
- ② 再出場違反。
- ③ DP違反。
- ④ 失格選手の出場。
- ⑤ 代替プレイヤー違反。
- ⑥ タイブレーク走者違反。

5-6項 タイブレーク

8回の表から無死・走者二塁を設定して攻撃を継続する。二塁走者はその回の9番目に打順が回ってくる者とし、打者は前回から引き続き正位打者(正しい打順の打者)とする。

6-4項 守備位置

1. 投手が投球するとき、野手はファウル地域に守備してはならない。ただし、捕手席にいる捕手を除く。

(注) このとき、投手が投球すると不正投球になる。

<効果> 1

- (1) デイレードデッドボール。
- (2) 不正投球。

2. 野手が、打者の視界内に位置したり、守備位置を変えたりして、打者を故意に惑わすような行為をしてはならない。

P71 ルール7 打撃

7-1項 次打者

※改正理由(修正理由)

7-1項2の文章に誤植(文字の抜け)があったため、正しい表記に修正した。

P78 ルール7 打撃

7-5項 ボール

※改正理由(修正理由)

7-5項6<効果>6の文章を整理し、わかりやすくした。

P82 ルール8 走塁

8-1項

打者が打者走者になる場合

※改正理由(修正理由)

8-1項4<効果>4の文章を、同<効果>内(2)の文章を引用し、文章表現を統一した。

P85 ルール8 走塁

8-2項

打者走者がアウトになる場合

※改正理由(修正理由)

8-2項7の「打者がスリーフットレーンの外側を走って～」という現行の文章では、スリーフットレーンの外側＝ファウル地域という誤解を招きかねないため、  
外側 → 以外  
と修正し、ファウル地域だけでなく、フェア地域もあり得ることが読み取れるような文章に修正した。

P108 ルール9

ボールデッドとボールインプレイ

9-3項

ディレードデッドボール

※改正理由(修正理由)

8-4項6と同様の内容のため、文章表現を合わせ、整合性を持たせるよう修正した。

7-1項 次打者

1. 次打者は打順表(ラインアップカード)で打者の次に名前が記入されているプレイヤーである。
2. 次打者は次打者席内で待機しなければならない。なお、安全面を考慮し、打席にいる打者が右打者の場合は三塁側、左打者の場合は一塁側の次打者席で待機しなければならない。

6. 投手が球を受けるか、球審がプレイを指示したのち、20秒以内に次の投球をしなかったとき。

<効果> 6

ボールデッド。打者に対してワンボールが宣告される。(不正投球ではない)

- (4) 打撃妨害による打者の一塁への安全進塁権を選択した場合、他の走者はフォースの場合を除いて進塁できない。

7. 打者走者がスリーフットレーン以外を走って一塁で送球を処理しようとしている野手の守備を妨害したと審判員が判断したとき。

9-3項 ディレードデッドボール

1. 不正投球があったとき。
2. 打撃妨害があったとき。
3. 走塁妨害があったとき。
4. 野手がグラブ・ミット・帽子などを故意に投げて投球や送球またはフェアの打球に触れたとき。
5. 球審が捕手の塁への送球を妨害したとき。

## P108 ルール10 審判員

### 10-1項 権限と義務

#### ●審判員についての一般的な知識

#### ※改正理由(修正理由)

3.をジェンダーに配慮し、「男性および女性の」の部分を削除。

同じく3.(7)については、運用の実状に合わせ、ベルトの色を「黒か紺」と明記した。

## ルール10 審判員

### 10-1項 権限と義務

審判員は協会の代表であり、特定の試合を割り当てられ、このルールの各条項を実施する権限を与えられている。

審判員は、プレイヤー、監督、主将、あるいはコーチに審判員の判断でこれらのルールの一部またはすべてについて強制したり、指示したりすることができる。

球審は、ルールで特に規定されていない、いかなる状況についても決定する権限を持っている。

#### ●審判員についての一般的な知識

1. 審判員は、両チームのメンバーと関係があってはならない。
2. 審判員は試合の日時、場所を確認していなければならない、所定の時刻までに球場に到着しなければならない。
3. **審判員は次の服装を標準的なものとする。**
  - (1) 審判服はパウダーブルーの半袖または長袖シャツ。
  - (2) ダークネイビーブルー（濃紺色）の靴下。
  - (3) ダークネイビーブルーのスラックス。
  - (4) 前面にJSAの文字の入ったダークネイビーブルーの帽子。
  - (5) ダークネイビーブルーのボール袋。（球審のみ）
  - (6) ダークネイビーブルーのジャケットまたはセーター。
  - (7) 黒い靴と**黒か紺のベルト**。
  - (8) パウダーブルーのシャツの下に白いTシャツ。
4. 審判員は、危険を引き起こすおそれのある装飾品を身につけてはならない。  
(注) 医療用のブレスレットまたはネックレスを除く。
5. 球審は、スロートガード付きマスクをつけなければならない。また、ボディプロテクターとレガーズをつける。
6. 審判員は、監督・主将・スコアラーに自己紹介をする。

P122 ルール12 記録

12-7項 犠牲打

※改正理由(修正理由)

WBSC(世界野球ソフトボール連盟)のスコアリングマニュアルに「外野地域の」という表記があり、日本のスコアリングマニュアルもすでにそれを採用し、実際に記帳・運用していることから12-7項2の表記もそれに合わせ、整合性を図った。

また、内野地域の飛球で三塁走者が生還した場合は、走者の好走塁であって「犠牲打」「犠飛」を記録しないことを明確にする趣旨での修正である。

※12-7項3も同様の修正

2. 無死または一死で、打者が捕球された**外野地域の**飛球で走者を得点させたとき。

(注) 野手が飛球を捕球したのち、競技場外に出たことにより三塁走者の本塁への生還を許した場合。

3. 外野手あるいは外野で内野手によって処理された**外野地域の**飛球またはライナーが落球となり走者が得点した場合、公式記録員が、それが捕球されていたとしても捕球後、得点できたと判断したとき。

(注) 本項の適用にあたって疑義のあるときは常に打者に有利に扱う。

P126 ルール12 記録

12-15項 自責点

※改正理由(修正理由)

(注4)の文章をスコアリングマニュアルの表記に合わせ、文章表現を統一し、整合性を図った。

12-15項 自責点

自責点とは、投手が責任を持たなければならない得点である。攻撃側のプレイヤーを3人アウトにできる守備機会をつかむ前に、安打、犠牲バント、犠牲フライ、盗塁、プットアウト、野手選択、四死球(故意四球を含む)、暴投、不正投球により走者が得点するたびに記録される。

(注1) 失策、打撃妨害、走塁妨害、捕逸、ファウル飛球失策による打撃時間延長後の出塁、進塁は自責点の対象とならない。

(注2) 同一回に2人以上の投手が出場したときの救援投手は、出場するまでの守備の機会を考慮することなく、それまでのアウトの数をもとに改めて回を終わらせなければならない。

(注3) 前任投手の残した走者による得点は、救援投手の自責点ではないし、またこの場合、前任投手の残した走者の数までは、救援投手の責任ではない。

(注4) **タイブレーク走者は自責点の対象走者とし**ない。

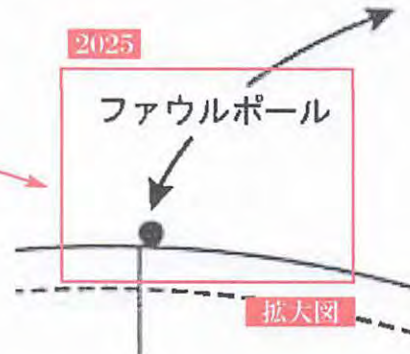
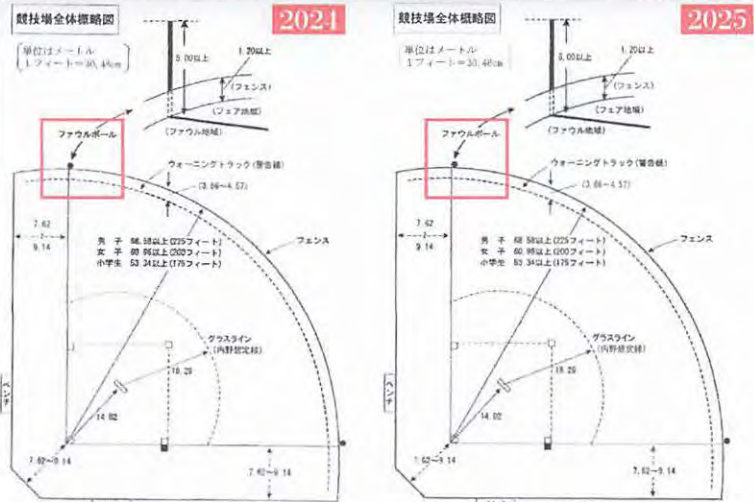
以上が2025年度のルール改正点となる

ルール改正を伴わない2025修正点

P29 ルール2 競技場  
競技場全体機略図  
イラストの修正

※修正理由

ルール改正ではないが、P29  
イラストのレフトボールの位置  
が左にズレてしまっていたため、  
正しい位置に修正した。



P175・176 さくいん

※修正理由

ルール改正ではないが、巻末  
の「さくいん」に2024年のルール  
改正の内容が反映されてい  
ない箇所があったため、2025年  
度版「オフィシャル ソフトボ  
ール ルール」の発行に合わせ、修  
正する。

(オ) P175

オーバースロー（悪送球ボールデッド）	1 - 53項
	8 - 4項8
追い越し（前位の走者を）	8 - 6項8
オフェンシブチーム（攻撃チーム）	1 - 48項
オプション（選択権）	1 - 51項
野手が不正用具でプレイしたとき	3 - 3項<効果>3項
不正交代をした選手が守備のプレイをする	4 - 7項<効果>7項(2)1)
不正投球を打者が打ったとき	6 - 1項~7項<効果>1項~7項(2)
不正投手が投球した球を打者が打ったとき	6 - 12項<効果>12項
捕手や他の野手が打撃妨害したとき	8 - 1項4<効果>4
再出場違反した選手が守備のプレイをする	4 - 7項<効果>7項(2)1)

(カ)

P176

回（イニング）	1 - 39項
外野（アウトフィールド）	1 - 52項
空タッチ（フェイクタッグ）	1 - 25項
	8 - 4項2(注5)
監督の選択権	1 - 51項
野手が不正用具でプレイしたとき	3 - 3項<効果>3項
不正交代をした選手が守備のプレイをする	4 - 7項<効果>7項1)
不正投球を打者が打ったとき	6 - 1項~7項<効果>1項~7項(2)
不正投手が投球した球を打者が打ったとき	6 - 12項<効果>12項
捕手や他の野手が打撃妨害したとき	8 - 1項4<効果>4
再出場違反した選手が守備のプレイをする	4 - 7項<効果>7項(2)1)



## 2025「競技者必携」審判の部 改訂・修正点

P36

5. 審判委員会申し合わせ事項

3. 競技場について

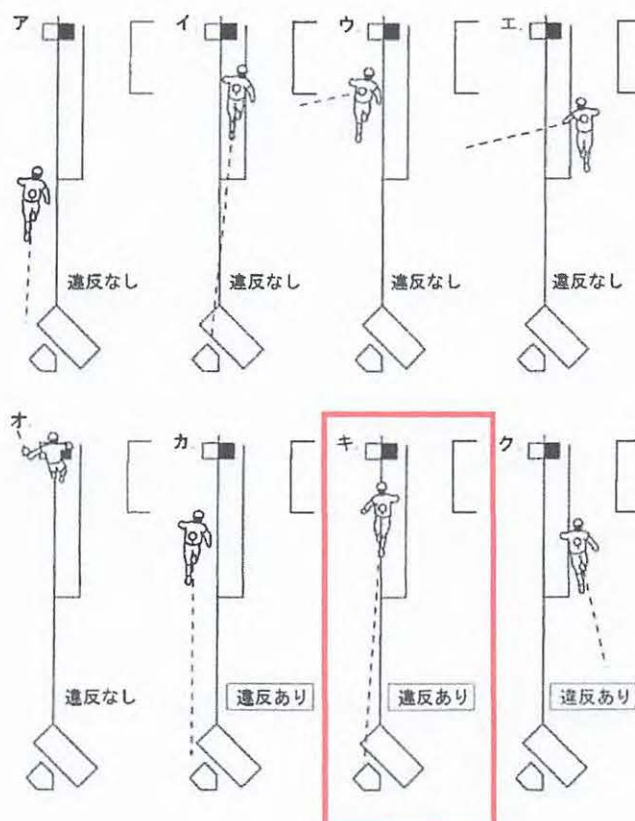
(4) スリーフットレーン違反  
について

※改訂理由(修正理由)

現行(注)を(注1)とし、(注2)を  
新設。

キ. に関する解説を追記した。

(4) スリーフットレーン違反について



(注1) ウ・エ・オは、送球の方向と打者走者の走る方向が異なり、妨害行為とはならない。

(注2) キはファウルライン上を走っているため、妨害行為となる。

※ライン上はフェア地域に含まれ、スリーフットレーン内ではない。

P38

5. 審判委員会申し合わせ事項

4. 用具について

(5) 使用球

※改訂理由(修正理由)

大会使用球(試合球)については、試合前、チームに貸与しないことになっているが、一部大会・開催地によって対応が異なるケースが散見されるため、対応を明文化し、意思統一を図った。

(5) 使用球

審判員は、使用前に手でこすって滑りを止めておくこと。

また、試合前、チームに大会使用球(試合球)を貸与し、練習等に使用させてはならない。

P39

5. 審判員申し合わせ事項

5. プレイヤーと交代について

(3)ウ

※改訂理由(修正理由)

(3)ウ の後に脱字(「 .」が抜けていた)があり、修正した。

P41

5. 審判委員会申し合わせ事項

5. プレイヤーと交代について

(5)テンポラリーランナー

※改訂理由(修正理由)

テンポラリーランナーの交代は出血・負傷の場合のみ行うことができ、その場合は正規の交代となること等を明記し、再確認を促すこととした。

P45

5. 審判委員会申し合わせ事項

8. 打撃について

(12)フェンス際の飛球の捕球について

イ. に補足・追記

※改訂理由(修正理由)

フェンスに衝突しながら捕球した際の説明文を追記することで分かりやすく整理した。

5. プレイヤーと交代について

- (1) 大会要項によるベンチ内の人数の点検確認をする。
- (2) 球審は、試合中、打順表を保持しなければならない。
- (3) 選手交代の通告

ア. 球審は、プレイヤーの交代の通告を受けたら、記録員に伝え、放送員が直ちに場内放送を通じて発表しなければならない。相手チームのベンチに告げに行く必要はない。

なお、放送設備のないときは、本塁付近から記録員、相手チームに分かるように大声で発表すればよい。

交代の通告は、先に交代して退く選手(O U T)から通告し、その後、交代して新たに入る選手(I N)を通告する。(ユニフォームナンバーも含む)

イ. 監督がいるにもかかわらず、他のコーチが選手交代を通告しても、これを受理してはならない。

ウ. 打順表の最終確認終了後であれば、プレイボール宣告前であっても、その交代は認められる。(この交代はスターティングプレイヤーの変更ではなく、通常の選手交代と同様に扱う。交代した選手が次に出場する場合には「再出場」となる)

(注2) テンポラリーランナーを使用した場合、テンポラリーランナーに代走を起用することはできない。ただし、テンポラリーランナーが出血・負傷したときのみ、正規の交代として選手交代を行うことができる。また、その場合、テンポラリーランナーを起用する前の投手・捕手を再び走者に戻すことはできない。

(注3) (注1)(注2)のような場合、テンポラリーランナーを交代させるには、正しい控え選手と交代させなければならない。

(12) フェンス際の飛球の捕球について

ア. 捕球直後、フェンスに衝突して、そのはずみで落球したときは、捕球とはみなさない。

(ア) 球が場内に落ちたときは、ボールインプレイである。

(イ) 球が場外に落ちたときは、ホームランである。

イ. 場内で捕球した直後にフェンスに衝突し、フェンスが破損したり倒れたりしたために、球を確捕したままフェンス上に転倒したときに、身体の一部でも場外に触れたときは捕球後場外とする。

ウ. ネット・フェンスが体圧でふくらんだ変形部分は場内とするが、球を確捕したままネットの上に倒れたときも場内捕球である。

また、ネット・フェンス上にいるときはボールインプレイであるが、片足でも場外に出たときはボールデッドとなる。

P47

5. 審判委員会申し合わせ事項  
10. 審判主任・副審について

※改訂理由(修正理由)

(2)の後に、審判主任の任務を追記し、各球場・試合会場で起こったトラブル等の報告義務を明記・再確認し、(3)とし、以下の項番を繰り下げた。

10. 審判主任・副審について

- (1) (公財)日本ソフトボール協会主催大会では、各球場に審判主任・副審を置く。
- (2) 審判主任は、試合中の審判員のルール適用の誤り、監督の抗議などを直ちに解決するため、担当審判員とともに責任を持つ。
- (3) 審判主任は、その球場で起こったトラブル等、報告が必要と思われる事項を副審判長に、副審判長は審判長に報告しなければならない。
- (4) 副審は、アウトカウント、ボールカウント、得点を常に確認して、もし間違いがあったときは、直ちに球審に連絡する義務がある。
- (5) 副審は、常に両チームの打順表を所持し、打撃の順序、プレイヤーの交代(投手、DP、再出場等)、控え選手に注意しなくてはならない。
- (6) 副審の席は、記録員と十分な連携を保つことのできる位置に設置する。

P79

7. 審判員の基本動作  
故意落球

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

R8-2項<効果>8~15に準ずる形で文章表現を改めた。

故意落球 故意落球、バッターアウト	トラップボール ノーキャッチ
球審は前に出る。 手またはグラブに触れてから故意に落としたかどうかを見極める。 ・無死または一死のとき ・走者が一塁、一・二塁、一・三塁、満塁のとき(走者が一塁にいるとき)に適用される。	飛球が野手に触れることなく一度地面に触れたかどうかを見極める。
球審は、“ボールデッド”とコールしてから右手で野手を指さして“故意落球”とコールし、続いて打者走者に向かって“バッターアウト”のコールとゼスチュアをする。	“ノーキャッチ”とコールし、セーフのシグナルを出す。

P80

7. 審判員の基本動作  
ツーベース

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

R8-2項<効果>8~15に準ずる形で文章表現を改めた。

打球と進塁 ツーベース	ホームラン
打球が、間接にフェンスを越えたか、または競技場外に出たかを確認する。	打球が、直接フェンスを越えたかどうかを確認する。
姿勢と構え	
コール・シグナル	
確認した塁審は、“ボールデッド”とコールし、右手を高く挙げ2本の指を立て“ツーベース”とコールする。 球審もこれに同調する。	確認した塁審は、右手を頭上に伸ばして手を握り、時計回りに水平に円を描く。

<p>P84</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>守備妨害(インターフェアランス)</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>他の項目との整合性を図り、文章を整理し、分かりやすく書き改めた。</p>	<p>安全進塁権</p> <p>ツー・ベース スリー・ベース</p>	<p>守備妨害(インターフェアランス)</p> <p>インターフェア・ランナーアウト</p>
	<p>姿勢と構え</p> <p>送球・投球が、ボールデッドになる場所に入ったかどうかを見る。</p> <p>送球またはフェアの打球にグラブなどを投げて、当てたかどうかを見る。</p>	<p>○本塁付近のプレイ</p> <p>球審は腰を落として見極める。</p> <p>○走者の場合</p> <p>塁審は腰を落とし、両手を大腿の付け根付近に置いてプレイを見極める。</p>
<p>コール・シグナル</p>	<p>ボールデッドのシグナルを示し、“ボールデッド”とコールし、右手を挙げ2本の指で“ツー・ベース”とコールする。(投球の場合はワン・ベース)</p> <p>球に当たったことを指さしたのち、“ディレドボール”のコールとゼスチュアをする。</p>	<p>球審は、両手を高く挙げ(タイムのシグナル)、“ボールデッド”とコールし、打者または走者を右手で指さして“インターフェア・バッターアウト”あるいは“インターフェア・ランナーアウト”のコールとゼスチュアをする。</p> <p>塁審は、ボールデッドのシグナルを示したのち、“ボールデッド”とコールし、妨害した走者を右手で指さして“インターフェア・ランナーアウト”のコールとゼスチュアをする。</p>

<p>P85</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>インターフェア・バッターアウト</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>他の項目との整合性を図り、文章を整理し、分かりやすく書き改めた。</p>	<p>インターフェア・バッターアウト</p>	<p>○観衆の場合</p> <p>野手が飛球を捕らえようとしたとき、観衆が妨害したかどうかを見極める。</p> <p>打球または送球に対して、観衆が妨害したかどうかを見極める。</p>	<p>○その他の妨害</p> <p>審判員が故意か偶然かを判断して、成り行きにするか、ボールデッドにするかを定める。</p>
	<p>“ボールデッド”とコールし、“インターフェア・バッターアウト”のコールとゼスチュアをする。</p> <p>その後、適切な処置をとる。</p>		

<p>P89</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>プレイの中断</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>文章に整合性を持たせた。</p>	<p>プレイの中断</p> <p>タイム</p>	<p>宣告の時機を見極めて前に出る。</p>
	<p>前に出て、両手を挙げて“タイム”とコールする。</p> <p>球審は左手でマスクを外し、そのままマスクとともに挙げる。</p> <p>他の審判員も直ちに同調する。</p>	

以上が2025年度版「競技者必携」審判の部の改訂・修正点である。

P5

もくじ

「参考」タイプブレーク説明の放送  
原稿の頁数を追加

※改訂理由(修正理由)

2024年度版「競技者必携」か  
ら「参考」として「タイプブレーク説  
明の放送原稿」を復活させて掲  
載していたが、「もくじ」に頁数の  
記載がなかったため、頁数を明  
記し、追加した。

2024

2. 基本的な動き	99
3. 留意事項	99
4. 外野への飛球を追いかけた場合の動き	100
5. 打球がヒットの場合の動き	108
9. 審判員の位置および動き（4人制）	111
1. 責任分担	111
2. 留意事項	111
3. 外野飛球の場合の動き	112
4. 内野ゴロの場合の動き	120
5. 打球がゴロで外野に抜けたとき、明らかなヒットのとき、 または外野審が入った場合の動き	120
6. 塁審の基本的な飛球に対する責任判定区分	121
10. 投手板の踏み方・踏み出し方	122
11. スローピッチ・ソフトボール	124
1. ファストピッチとの主な違い	124
2. スローピッチ・ストライクゾーン	126
3. スローピッチの審判で特に留意すること	127

2025

2. 基本的な動き	99
3. 留意事項	99
4. 外野への飛球を追いかけた場合の動き	100
5. 打球がヒットの場合の動き	108
9. 審判員の位置および動き（4人制）	111
1. 責任分担	111
2. 留意事項	111
3. 外野飛球の場合の動き	112
4. 内野ゴロの場合の動き	120
5. 打球がゴロで外野に抜けたとき、明らかなヒットのとき、 または外野審が入った場合の動き	120
6. 塁審の基本的な飛球に対する責任判定区分	121
10. 投手板の踏み方・踏み出し方	122
11. スローピッチ・ソフトボール	124
1. ファストピッチとの主な違い	124
2. スローピッチ・ストライクゾーン	126
3. スローピッチの審判で特に留意すること	127
参考 タイプブレーク説明の放送原稿（例）	128

掲載頁数を明記し、追加

# 2025「競技者必携」記録の部 改訂・修正点

P147

## 3. 公式記録員手引

### 3. 試合前に必要なこと

#### (2) 試合前に準備すること

##### 9) の文章を修正

#### ※改訂理由(修正理由)

試合開始時刻だけでなく、「終了時刻」の計時記帳も同様に大切な事柄であるため、追記した。

全員が記入されているか確認します。

6) 確認が終了したならばスコアカードに、先攻チームを表ページに、後攻チームを裏ページに、打撃順に従って守備位置、プレイヤー名、ユニフォームナンバーを記入します。

7) 大会名、年月日、球場名、天候、審判員名など、試合開始前に記入を終え、開始を待ちます。

8) 試合前のフィールドイングのとき、放送係の紹介アナウンスを聞きながら、守備位置、ユニフォームナンバーに誤りがないかを確認する余裕がほしいものです。

9) 試合開始・終了時刻の計時、記帳を忘れがちです。

第1試合の場合は始球式が行われることがあります。試合開始が宣告され、始球式です。開始時刻を何時にするか、疑問が生じるところですが、始球式はあくまで試合のセレモニーであって、試合時間に入れる必要はないものと考えます。

始球式後、投手は5球の投球練習を行います。その後のプレイボールが試合開始時刻です。

P148

## 3. 公式記録員手引

### 4. 大会期間中の発行資料

#### ※改訂理由(修正理由)

大会期間中の発行資料として「スタートリスト」を作成、発行しているため、その実状に合わせ、追記した。

### 4. 大会期間中の発行資料

2024

発行資料	一般大会	日本リーグ	国際大会
1 打順表	打順表を配布する パソコン編集の打順表を配布	打順表を配布する パソコン編集の打順表を配布	パソコン編集の打順表を配布
2 速報	一般大会 掲載例の様式 学生大会 主催者の様式	決められた様式の速報を使用	決められた様式の速報を使用
3 組合せ表・戦績表	組合せ表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	戦績表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	記者席へ提供 必要に応じ報道機関へFAX送信
4 スコアカード	暫定版 完成版	必要に応じて提供	記者席へ提供 報告書用
4 刺殺・捕殺の記載は不要		記者席へ提供 報告書用	記者席へ提供 報告書用
4 全項目を記入		全項目を記入	全項目を記入
摘要			和文・英文のそれぞれの様式の資料を同時に提供

### 4. 大会期間中の発行資料

2025

発行資料	一般大会	日本リーグ	国際大会
1 打順表	打順表を配布する パソコン編集の打順表 <b>「スタートリスト」</b> を配布	打順表を配布する パソコン編集の打順表 <b>「スタートリスト」</b> を配布	パソコン編集の打順表 <b>「スタートリスト」</b> を配布
2 速報	一般大会 掲載例の様式 学生大会 主催者の様式	決められた様式の速報を使用	決められた様式の速報を使用
3 組合せ表・戦績表	組合せ表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	戦績表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	記者席へ提供 必要に応じ報道機関へFAX送信
4 スコアカード	暫定版 完成版	必要に応じて提供	記者席へ提供 報告書用
4 刺殺・捕殺の記載は不要		記者席へ提供 報告書用	記者席へ提供 報告書用
4 全項目を記入		全項目を記入	全項目を記入
摘要			和文・英文のそれぞれの様式の資料を同時に提供

赤枠囲み部分が2025新規追記部分

P150

### 3. 公式記録員手引

### 6. 大会速報

※改訂理由(修正理由)

例示する大会速報の差し替えを行った。

### 6. 大会速報

令和6年度 全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会(女子)

《大会速報》 試合番号 47

開催場所	長崎県	会場	大村市総合運動公園 運動広場A
第4日	2024年6月26日	決勝	
開場時間	10時00分	終了時間	14時30分
試合時間	90分(延長あり)	試合時間	91分(延長あり)

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
青空学園高等学校	0	0	1	0	1	0	0	1							3
青空学園高等学校	0	0	0	0	0	2	0	2							4

青空学園高等学校	西筑ふじり高等学校	青空学園高等学校	青空学園高等学校
(投) 手 知田 幸和 小椋 めぐみ ●和田 実和 (捕) 手 藤尾 高洋代	(投) 手 工藤 志づき ○林 山花 (捕) 手 山下 幸代	(二) 五郎 弘子	(二) 三井 小百合
マウンド		アウト	

**戦評**  
日本高等学校 逆転リヨナラで初優勝！  
青空学園高校は1回一死満塁、代打吉岡の三球強襲打と大谷の三盗塁実行でチャンスを開き、後半の二盗塁適時打で1点を先制。5回には大谷、藤尾の長打打に守備の混乱から1点を加えた。  
一方、日本代表校は4回、一死二塁から三井の右中間三塁打などで2点を挙げ、そのまま逆風に侵入した。青空学園高校は8回末、神田の犠牲フライで1点を勝ち越したが、その裏、日本代表校は藤尾の右前安打で再び同点に追いつくと、山下の二盗塁実行で逆襲が生まれ、逆転リヨナラで念願の初優勝を挙げた。

投手	小野 恭子	投手1	山本 琴音
一塁塁手	上川 香織	投手2	
二塁塁手	芝田 静	記録員	小池 知恵
三塁塁手	森 さやか	放送員	谷 悠美

P151

### 3. 公式記録員手引

### 【記録1号】

※改訂理由(修正理由)

「投手の記録」<記録5号>  
「打撃・守備の記録」<記録6号>を全チームに配布・送付することをわかりやすく明確にした。

### 2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025修正部分

### 【記録1号】

### 大会結果報告書

記録1号

大会名 第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

---

年月日 令和6年11月9日～10日

---

会場 浦安市、上谷総合公園野球場(フラスコスタジアム)

---

公益財団法人 日本ソフトボール協会 記録委員会 記録長 西藤 正人  
副記録長 矢口 和正

### 報告書類

- 組合せ・立ち上がり表(トータルスコア記入) <記録3号>
- 試合結果(イニングスコア等・準決勝以降) <記録4号>
- 投手の記録 (全チーム) <記録5号 全チーム>  
(規定投球回数以上) <記録5号順位別>
- 打撃・守備の記録 (全チーム) <記録6号 全チーム>  
(規定打席数以上・ベスト30) <記録6号順位別>
- スコアカードの写し (決勝および準決勝)

P152

### 3. 公式記録員手引

#### 【記録3号】

#### ※改訂理由(修正理由)

ページ下部の「作成上の注意点」

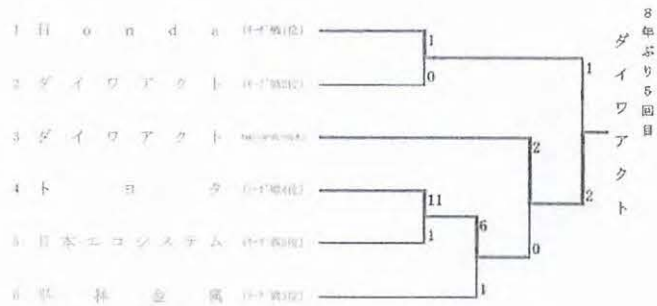
1. の文章の「没収試合等」を「不戦勝(没収試合)等」に修正。
2. に「抽選勝ちの場合、得点を○で囲む」を新規追記。
3. を新設。2. に新規項目を追加したため、従前の2. を新設した3. とした。

### 【記録3号】 2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025新規追記・修正部分

2024年度第53回日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント

前日 令和6年11月9日(土)～10日(日)  
会場 埼玉県鴻巣市、上谷総合公園野球場(アラワースタジアム)



(公附) 日本ソフトボール協会 記録委員会

作成上の注意点

1. 試合番号、試合開始時間、○回コールド、○回タイブレーク、**不戦勝(没収試合)等**は記入しない。  
チーム名はプログラムと同じかを確認する
2. **抽選勝ちの場合、得点を○で囲む**
3. **問い合わせ先は大会期間中のみ記載する**

P153

### 3. 公式記録員手引

#### 【記録4号】

#### ※改訂理由(修正理由)

ページ下部に「記録3号」同様、「作成上の注意点」を追記し、棄権があった場合の備考欄の記載について注意を促した。

#### 【記録4号】

第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント  
会場 埼玉県鴻巣市、上谷総合公園野球場(アラワースタジアム) 【記録4号】

試合日	2024年11月10日	1回決定戦	試合時間	0時開始5分	試合番号	備考												
上位者	チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
下位者	ダイワアクト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
下位者	日ノ本	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	

先攻 (攻 手) ●池田 悠生 捕手 丸藤 隆

後攻 (攻 手) ○山本 悠介 捕手 菅原 大輔

(二塁打) 吉川 悠生

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) 池田 悠介 (三塁打) 山本 悠介 (二塁打) 吉川 悠生

特別事項

試合日	2024年11月10日	決 勝	試合時間	0時開始5分	試合番号	備考												
上位者	チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計		
下位者	ダイワアクト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
下位者	日ノ本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

先攻 (攻 手) ●池田 悠生 捕手 丸藤 隆

後攻 (攻 手) ○池田 悠生 捕手 菅原 大輔

(二塁打) 吉川 悠生

先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)

特別事項

作成上の注意点

一方のチームが棄権した場合、4号の備考欄に不戦勝を明記する

### 2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025新規追記部分



P154

3. 公式記録員手引

【記録5号】

※改訂理由(修正理由)

昨年の男子決勝トーナメントの記録に差し替え、<記録5号>を全チームに配布・送付することを新たに追記した。

2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025新規追記部分

【記録5号 全チーム】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント  
以下の記録 (チーム全試合) 登録試合数：3 チーム名：ダイワアクト

Table with columns for player name, position, and various statistics including batting average, home runs, and RBIs.

【記録5号順位別】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント  
以下の記録 (規定登録回数 4回以上)

(記録6号順位別)

Table showing player statistics sorted by rank, including batting average, home runs, and RBIs.

P155

3. 公式記録員手引

【記録6号】

※改訂理由(修正理由)

昨年の男子決勝トーナメントの記録に差し替え、<記録6号>を全チームに配布・送付することを新たに追記した。

【記録6号 全チーム】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント  
打撃・守備の記録 (チーム全試合) 登録試合数：3 チーム名：ダイワアクト

Table with columns for player name, position, and various statistics including batting average, home runs, RBIs, and defensive metrics.

【記録6号順位別】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント  
打撃ベスト30 (規定打席数 4打席以上)

(記録6号順位別)

Table showing player statistics sorted by batting average, including batting average, home runs, and RBIs.

2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025新規追記部分

## 2025「競技者必携」指導者の部 改訂・修正点

P166

公認指導者規程

第8条 指導者資格の義務化

※改訂理由(修正理由)

大学で学生以外が監督の場合は「スタートコーチ」では「不可」とし、「日本スポーツマスターズ」が「国民スポーツ大会」と同様の資格取得が義務付けられたため、その内容を明記した。

資格名	生涯種別	学生種別	競技種別
公認ソフトボール スタートコーチ	○	○ ※大学は学生以外が 監督をする場合は不可	×
公認ソフトボール コーチ1	○	○	○
公認ソフトボール コーチ2	○	○	○
公認ソフトボール コーチ3	○	○	○
公認ソフトボール コーチ4	○	○	○
公認ソフトボール 準指導員	○	○	○
公認スタートコーチ (教員免許状保持者)	以下4大会のみ可 ・全日本小学生大会 ・春季全日本小学生大会 ・全日本中学生大会 ・都道府県対抗全日本中学生大会	以下1大会のみ可 ・全国高等学校選抜大会	×

- 2 国民スポーツ大会の監督、また、日本スポーツマスターズ大会の監督、コーチ、またはそれに代わる代行者となり得る者は、「公認ソフトボールコーチ1」「公認ソフトボールコーチ2」「公認ソフトボールコーチ3」「公認ソフトボールコーチ4」のいずれかの資格を取得すること。
- 3 日本リーグ、一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構（以下、「JD リーグ」という。）加盟チームの監督及びコーチは「公認ソフトボールコーチ3」又は「公認ソフトボールコーチ4」の資格を有すること。
- 4 日本を代表して国際大会に派遣するチームのヘッドコーチ及びコーチは、「公認ソフトボールコーチ3」又は「公認ソフトボールコーチ4」の資格を有すること。

# 2025「競技者必携」総務の部 改訂・修正点

P9

競技会運営に関する注意事項  
別表 ベンチ入りできる人数

※改訂理由(修正理由)

エルダー大会が日本協会主催大会として「復活」したことにより、「種別」(競技会)の一番上の欄に「エルダー」を追記した。

別表 ベンチ入りできる人数

2024

種別(競技会)	引率 責任者	監督	コーチ	スコアラ	選手 (以内)	備考
実業団・クラブ・教員・レディース・エルダー・壮年・実年・シニア・ハイシニア・総合・一般男子・大学		1	2	1	25	(注)1
高校 総体 選抜	1 1	1 1		※1 ※1	17 25	(注)2
中学校	1	1	1		18	(注)3、4
中学生	1	1	2	1	25	
都道府県対抗中学生		1	2	1	18	
小学生	1	1	2	1	25	

別表 ベンチ入りできる人数

2025

種別(競技会)	引率 責任者	監督	コーチ	スコアラ	選手 (以内)	備考
実業団・クラブ・教員・レディース・ <b>エルダー</b> ・エルダスト・壮年・実年・シニア・ハイシニア・総合・一般男子・大学		1	2	1	25	(注)1
高校 総体 選抜	1 1	1 1		※1 ※1	17 25	(注)2
中学校	1	1	1		18	(注)3、4
中学生	1	1	2	1	25	
都道府県対抗中学生		1	2	1	18	
小学生	1	1	2	1	25	

赤枠囲み部分が  
2025新規追記部分

P14

競技会運営に関する注意事項  
チーム登録規程

第5条 チームの登録

登録に関する記述を修正

※改訂理由(修正理由)

チーム登録に関する記述を  
実状に合わせ、修正を行った。

第5条 チームの登録は、その年度毎に行うものとする。(6月30日を最終期限)。新規登録はその年度内認められる。いずれも、全国大会支部選までに登録を完了していないチームは、その全国大会に出場することができない。なお、登録は、**当法人所定の方法により、支部長の確認をもって提出するものとする。**

支部に追加登録のあった場合も上記の通りとする。なお、小学生・中学生・高等学校・大学に限り、年度初めの登録とは別に、8月21日から9月30日までチームの選手登録の変更を認める。

第6条 支部は登録されたチームに変更のあった場合、及び取り消した場合は、直ちにその内容を当法人に届け出なければならない。登録されたチームの選手は、その年度内他のチームに登録することができない。もし選手が移籍した場合には、その選手は当該年度内のすべての支部、地区及び本大会への出場権を喪失する。登録されたチームの監督・コーチについては変更することができる。

第7条 登録を完了しないチーム及び選手は、当法人主催のすべての大会に参加できない。ただし、国民スポーツ大会については本規程は適用せず、「国民スポーツ大会実施要項」の定めるところによる。

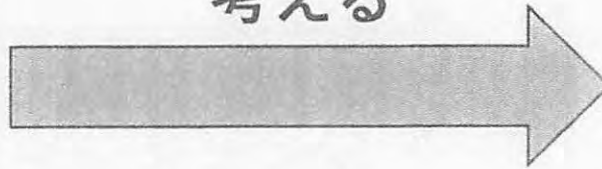
## 自責点の数え方 ※以下のパターンにあてはまらない場合もあります

- ①失策、捕逸、走塁妨害は無かったものとする
- ②打撃延長があった場合は、打撃を有効とするがアウトカウントを1増やす
- ③打撃妨害があった場合は、打撃を有効とする
- ④複数投手登板の場合は、その投手毎に考える
- ⑤理論上の進塁は塁打数と同数とするが、実際の打撃による進塁はそれを優先する

# ①-1 失策、捕逸、走塁妨害は無かったものとする

1	(3)(2) ○ ④ / 7 !
2	(3) 5E-3
3	◇ 5-4 I
4	◇ 9 II

2番打者の失策を  
無かったものとして  
考える

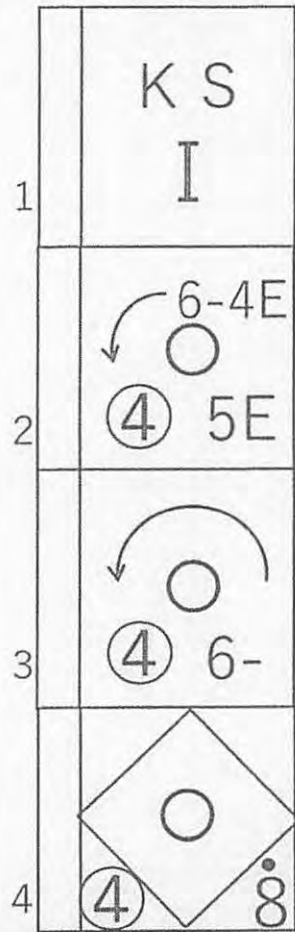


1	(3) l / 7 !
2	(5-3) I
3	◇ 5-4 II
4	(9) III

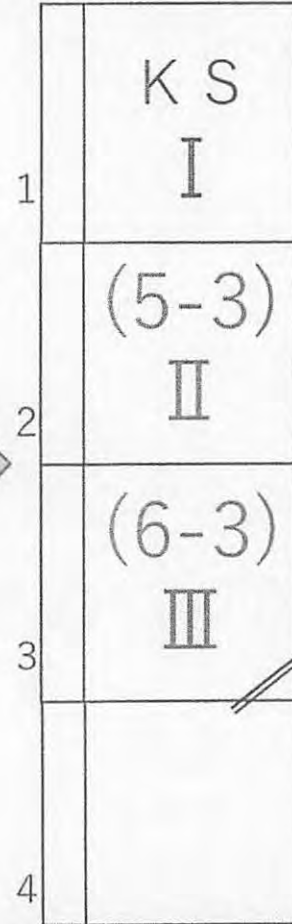
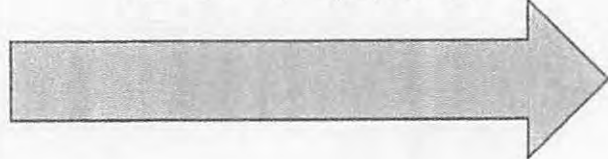
2番打者の失策を  
無かったものとする  
と、1番打者の  
得点は無くなり、  
残塁になる。

よってこの得点は  
非自責点！

# ①-2 失策、捕逸、走塁妨害は無かったものとする



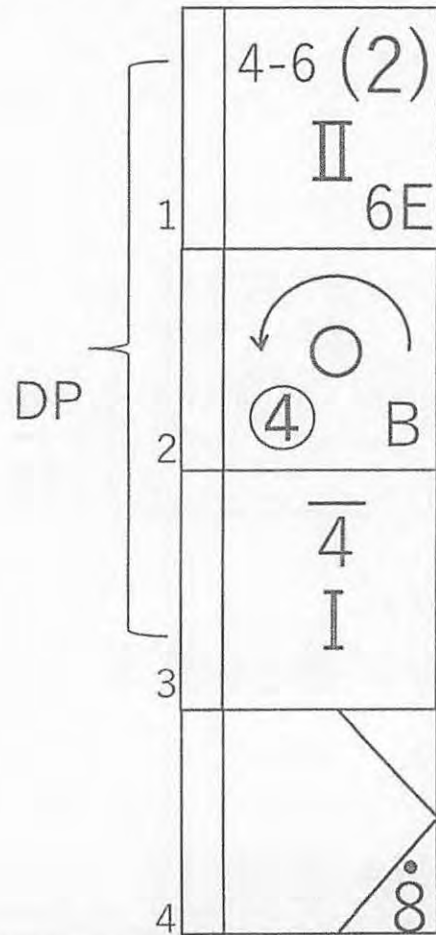
2番と3番打者の失策を無かったものとして考える



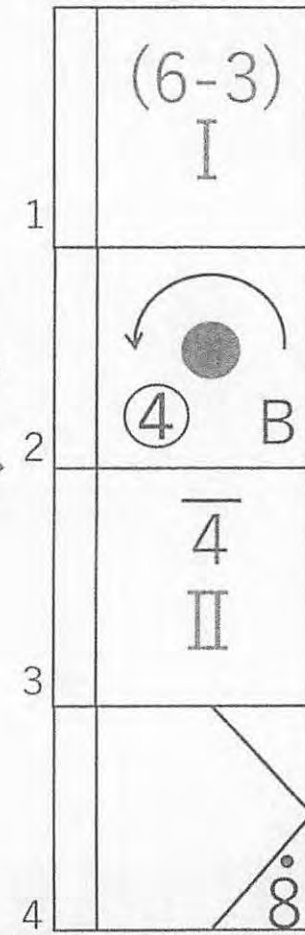
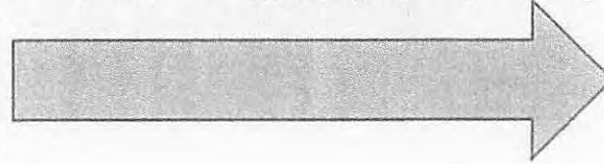
3番打者は一塁走者として入れ代わってきた走者なので、失策によって生きた走者とみなす。

よってこの得点は**非自責点**！

# ①-3 失策、捕逸、走塁妨害は無かったものとする



1番打者の失策を  
無かったものとして  
アウトの機会を考える

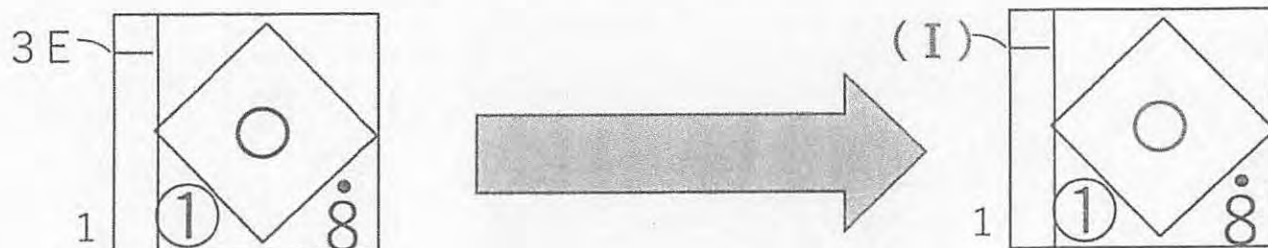


アウトの機会が  
3度あったように  
思えるが、3番打  
者がアウトになっ  
ているので、4-6  
はアウトの機会に  
ならない。

よってこの得点は  
自責点！

②-1 打撃延長があった場合は、  
打撃を有効とするがアウトカウントは1増やす

1番打者の失策を無かったものとして、  
アウトの機会を考える



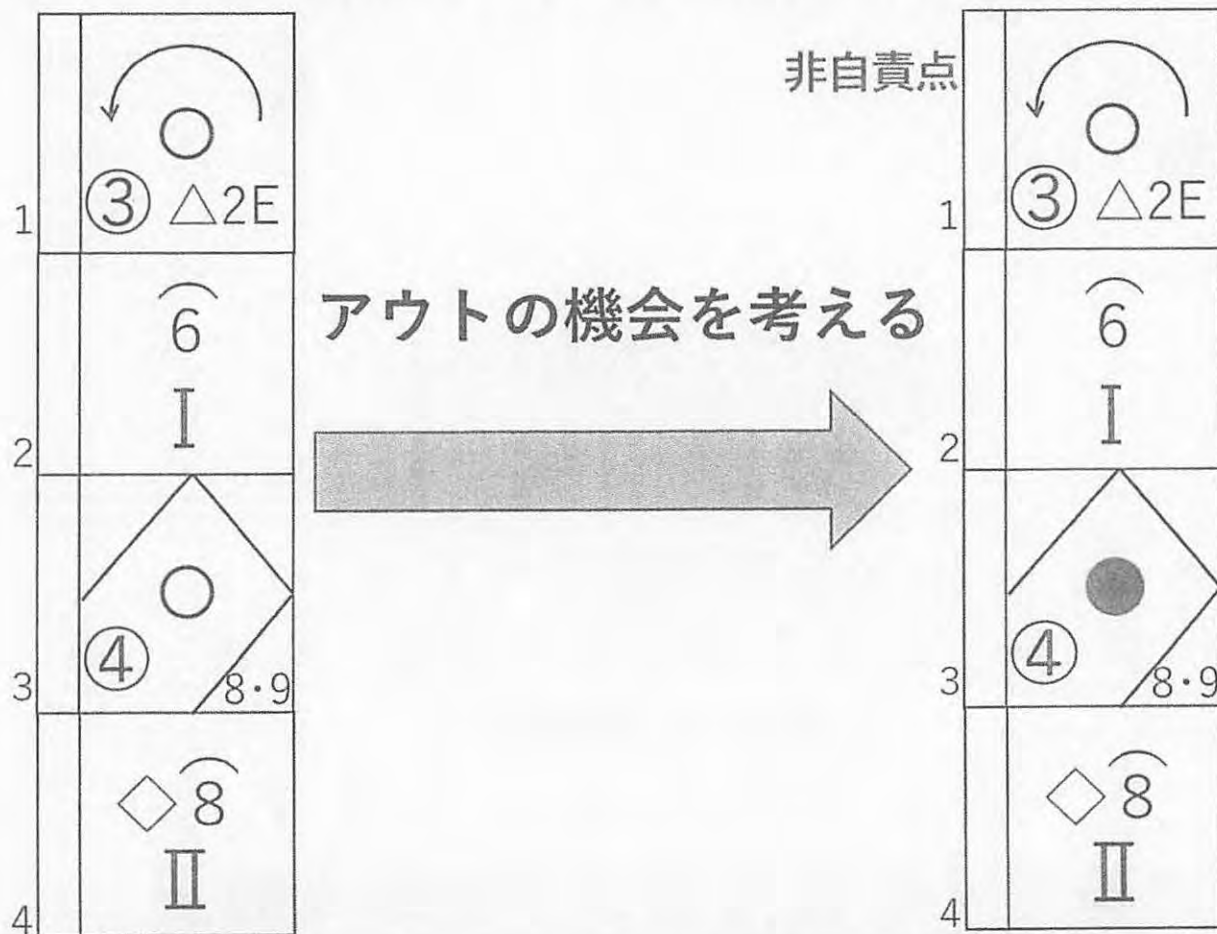
この落球失策は  
『打撃の延長』と  
表現される事象で、  
アウトの機会となる。  
1度アウトになった  
打者と考える。

よってこの得点は  
非自責点！





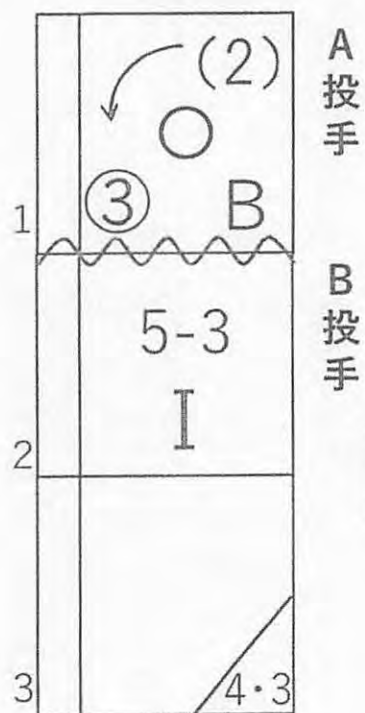
### ③-1 打撃妨害があった場合、打撃は有効とする



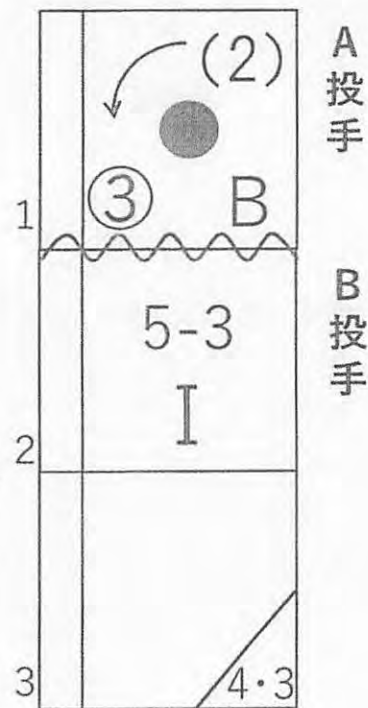
打撃妨害で出塁した走者は自責点対象外。しかし、アウトの機会とは数えない。

よって1番打者の得点は**非自責点**・3番打者の得点は**自責点**！

## ④-1 複数投手登板の場合は、その投手毎に考える



投手毎の  
責任を考える



投手は自己の残した  
走者の数まで責任を  
負う。

A投手は1人の走者  
を残している。

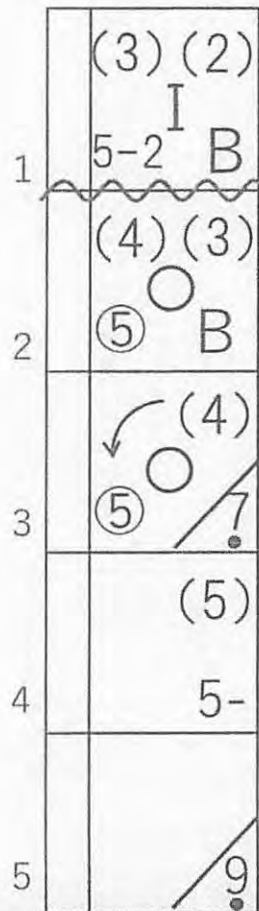
この得点はA投手の  
失点（自責点）に  
なる！

	失点	自責点
A投手	1	1
B投手	0	0

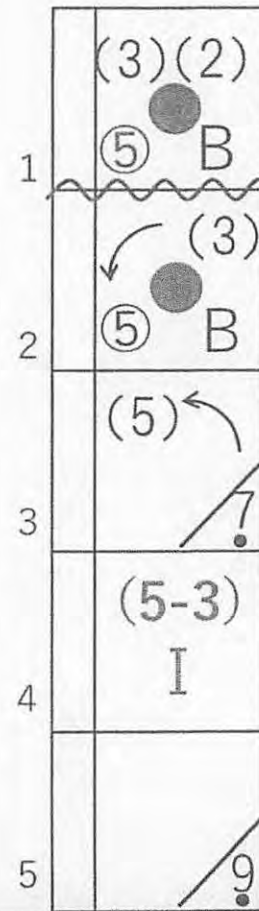
## ④-2 複数投手登板の場合は、その投手毎に考える



スコアは  
これで書く！



A 投手  
B 投手



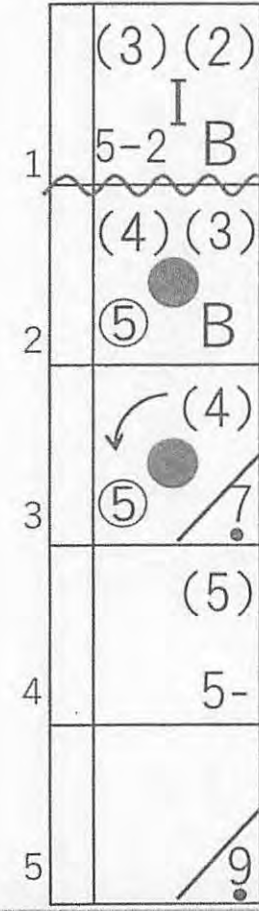
A 投手  
B 投手

### 投手毎の責任を考える

A投手が出塁させた走者は、4番打者に置き換わった。4番打者が生還しなくとも、A投手は1人の走者を残して退いたため、その数は責任を負う。

よって、A投手・B投手とも1点の失点（自責点）になる！

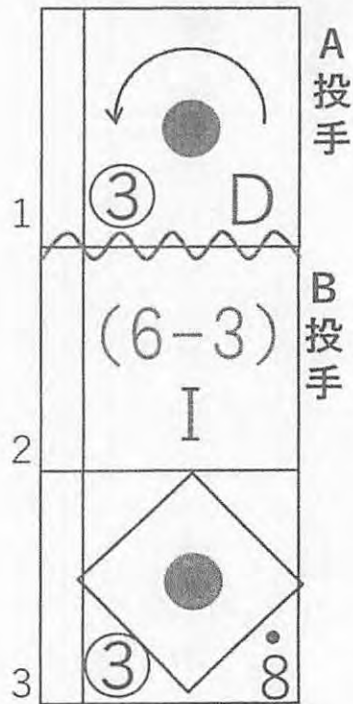
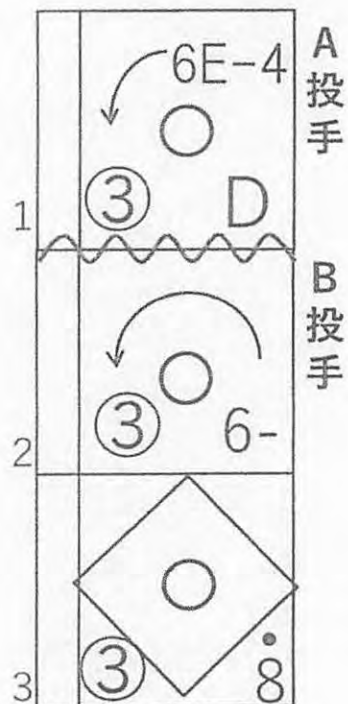
	失点	自責点
A 投手	1	1
B 投手	1	1



A 投手  
B 投手

## ④-3 複数投手登板の場合は、その投手毎に考える

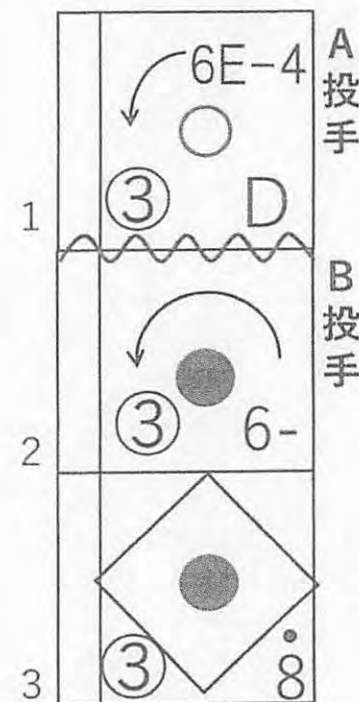
投手毎の責任を考える



2番打者の失策を  
無かったものとする。

よって1番打者は  
A投手の責任、  
2番・3番打者は  
B投手の責任！

	失点	自责点
A投手	1	1
B投手	2	1

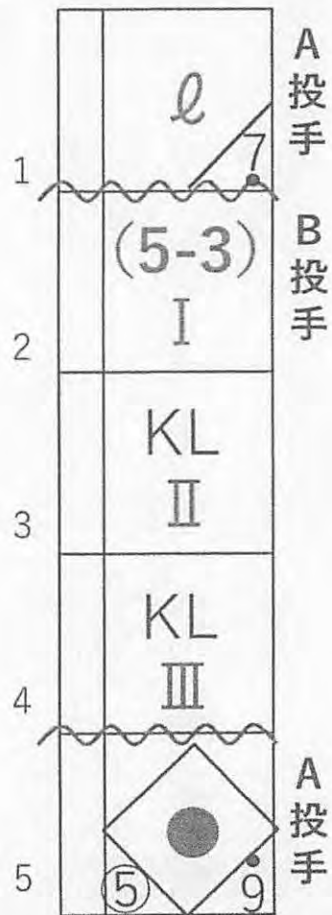
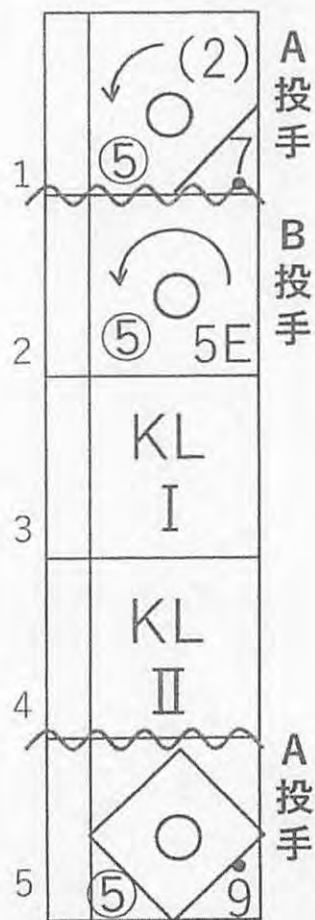


スコアは  
これで書く！



# ④-4 複数投手登板の場合は、その投手毎に考える

スコアは  
これで書く！

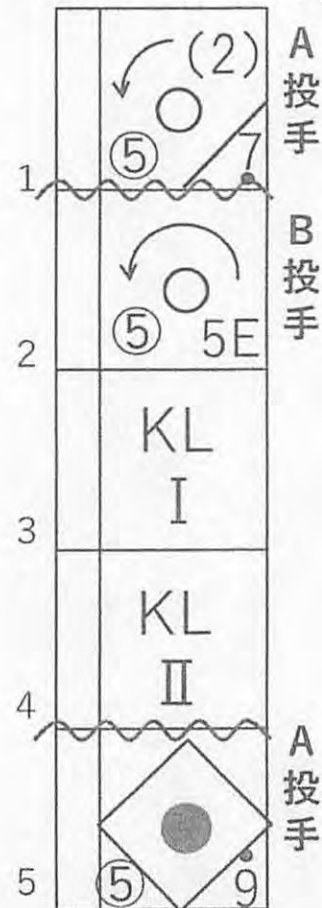


## 投手毎の責任を考える

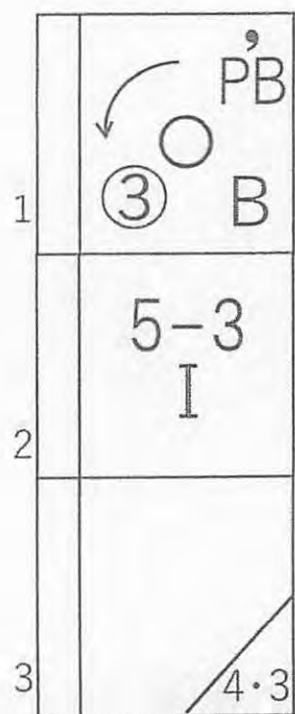
失策を無かったものとして考えると、4番打者が三振したところでアウトの機会は3度になる。再出場したA投手はアウトの数を数え直す。

よって、再出場のA投手の失点は自責点になる！

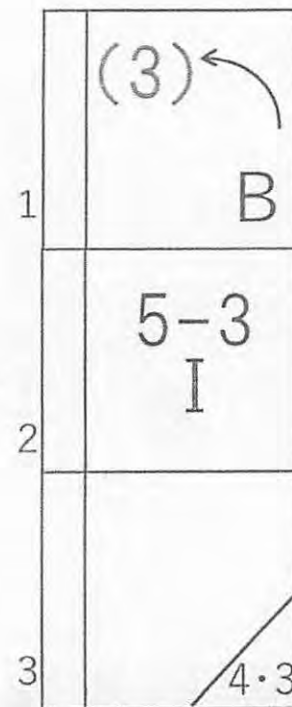
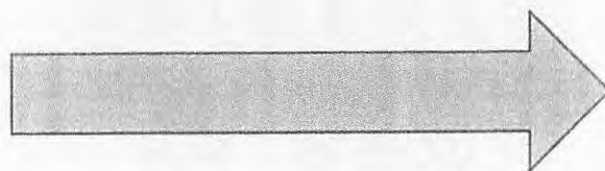
	失点	自責点
A 投手	1	0
B 投手	1	0
A 投手	1	1



⑤-1 理論上の進塁は塁打数と同数とするが、  
 実際の打撃による進塁はそれを優先する



PBが無かった場合の  
 進塁の数を考える



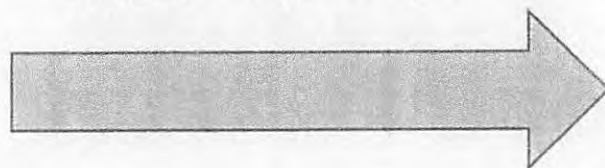
1番打者は2番打者の三塁ゴロで二塁へ進塁できたとは考えず（二塁で封殺されたかもしれない）、二塁への進塁は捕逸によるものとし、自責点の対象としない。

よって1番打者の得点は**非自責点**！

⑤-2 理論上の進塁は塁打数と同数とするが、  
 実際の打撃による進塁はそれを優先する

1	PB ○ ③	8 /
2	(3) 4E	
3		/ 4・3

PB・失策が  
 無かった場合の  
 進塁の数を考える



1	(2) ● ③	8 /
2	(4-3) I	
3		/ 4・3

捕逸がなくても  
 2番打者の二塁  
 ゴロ失策で三塁  
 へ進塁できたと  
 判断すれば、こ  
 の得点は**自責点**  
 になる！